

平成 2 9 年度の委員会運営方法について

1 付議事件

M I C E の推進、国際コンテナ戦略港湾の推進、国際戦略総合特区の推進、文化・芸術等の大規模集客イベントの開催に関すること。

2 市会運営委員会（平成24年5月8日開催）での特別委員会運営方法に関する決定事項

- ・付議事件の調査・研究を目的として、委員間の意見交換、事例視察や参考人意見聴取などを行う。
- ・委員会報告書は、付議事件に対する結論や一定の方向性を得たとき又は議員任期が満了するときに議長に提出するものとする。

3 平成 2 9 年度調査・研究テーマ(案)

横浜の魅力をつなぐ・広げる取り組みについて（案）

(参考：過去の特別委員会における調査・研究テーマと選定理由)

【平成28年度】選ばれる国際港都横浜の魅力づくりの推進について

＜選定理由＞

横浜市は、中期4か年計画の戦略3「『魅力と活力あふれる都市の再生』戦略」に基づいて、市民・企業・行政が一体となり、世界中の人々や企業を引きつけ、都市の活力とにぎわいを創出するまちづくりを推進している。

これまで本特別委員会では、観光・MICEの推進や文化・芸術等の創造都市戦略の検証などをテーマに委員会活動を行ってきたが、今までの議論は継続しつつ、本委員会の付議事件のうちまだテーマとして取り上げられていない国際コンテナ戦略港湾の推進や国際戦略総合特区の推進についても議論し、国際港都横浜が選ばれるためにどうあるべきかを複合的な観点から検証していく必要がある。

よって本特別委員会では、このテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多面的に調査・研究を行うこととした。

【平成27年度】東京オリンピック等を見据えた横浜らしい観光・MICEの推進について

＜選定理由＞

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、今後、海外からの観光客数が大幅にふえることが予想される。横浜がMICE分野において、韓国やシンガポール等の海外都市との国際競争に打ち勝っていくためには、五輪を好機と捉え、横浜に多くのお客様をお迎えし、オリンピック終了後も選ばれる都市となるよう環境を整備していくことが必要である。

そのためには、大型コンベンションなどを受け入れる施設の整備や多言語に対応できる案内手法の導入、横浜に潜在する横浜らしさの発掘とその活用など多岐にわたる施策の展開が求められる。

当委員会では、このテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多面的に調査、研究を行っていくこととした。

【平成26年度】横浜における創造都市戦略とその検証について

＜選定理由＞

本市においても、ヨコハマトリエンナーレ2014や東アジア文化都市2014横浜などさまざまな創造都市に関する事業を行っているが、本来の創造都市が意味するところは、地域の人的・文化的資源を活用し、文化と産業を融合させ創造的な問題解決をしていき、持続可能な都市に再生させていくことや、多様性があり寛容で新しいアイデアに開放的な場所を好むクリエイティブクラスが集まることにより、地域経済が成長していくことである。現在の施策については文化的な要素に偏りがちであるため、本市がこれまで行ってきた創造都市戦略の検証及び今後の施策のあり方等について調査・研究を行うこととした。

【平成25年度】横浜の発展に寄与するMICE戦略について

＜選定理由＞

本市は、これまでアフリカ開発会議等の国際会議を成功させてきた実績がある。しかし、MICEの推進による経済波及効果を狙い大規模な国際会議や展示会等の誘致競争は、世界の各都市のみならず日本国内の各都市間でも激化している。その大きな理由の一つに高い経済波及効果が上げられるが、どのようなMICEの推進と実施が本市の経済などの発展に寄与できるのか、今後も本市がMICE開催都市として選ばれ続けるために、今後10年程度を見据えた本市のMICEのあり方を議論する必要があると考えたため。

【平成24年度】観光・創造都市戦略における国際都市横浜の魅力づくりについて

＜選定理由＞

観光・MICE・創造都市の推進について、横浜市中期4か年計画の中で新たな成長分野として、「観光・創造都市戦略」を横浜版成長戦略の一つに据えて、重点的に取り組んでいるが、都市間競争が激化する中で「観光・創造都市戦略」を着実に進め、国際都市横浜として都市の魅力を高めるためには、より具体的で実効性の高い施策を推進していく必要がある。そのため、現地視察や専門家からの意見聴取などを行い、「観光・MICE・創造都市よこはま」を早期に確立させるための横浜の魅力づくりについて調査・研究を行う必要があると考えたため。